SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

まえがき

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 長沼, さやか, 山本, 達也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026289

まえがき

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コースでは、毎年 5 月下旬から 6 月上旬にかけた時期に、4 泊 5 日の日程で静岡県内の調査地に泊まり込み、その土地の暮らしについて学ぶフィールドワーク実習を実施しています。参加するのは本コースに在籍する学部 3 年生です。調査地は教員が選定しますが、その後は学生が文献や統計、地図などの資料を収集し、現地を下見するなど事前準備を進め、自らの関心にそってテーマを設定して本調査にのぞみます。

今年度の調査地は、2015 年度と 2017 年度に引き続き、静岡市清水区由比でした。初回の 2015 年度には、東海道由比宿やサクラエビ・シラスなど、由比を彩る歴史や産業について学び、2017 年度には中山間地域の入山地区と由比川流域におけるフィールドワークを通して、由比の奥深さに触れました。そして、今年度は由比西部の西山寺・今宿・寺尾・倉沢の各地区を中心に調査を行いました。

実習期間は 5 月 27 日（日）から 31 日（木）にかけてで、教員 2 名と学生 5 名（貝瀬彩華・小井土蓮・長廻比呂・水野ひかる・渡邊優歌）の 7 名が、由比今宿の見晴旅館に宿泊しました。学生たちが設定したテーマは、倉沢の定置網漁業やビワ栽培農家をとりまく人の交流やモノの移動、地すべりという自然現象とともにある暮らし、過疎化・核家族化する地域社会で個人の「生」に寄り添おうとする寺院の取り組み、個人商店の営業活動が生み出す人のつながりなどで、関心は多岐に渡ります。しかし、それぞれが調べたことをつなぎ合わせると、人、モノ、自然が日常のなかでさまざまな距離や形で関わり合いながら、暮らしの場としての由比を形作っていると気づくことができました。

調査にあたっては、多くの方々からご支援を賜りました。由比地区連合自治会の桑原信夫会長には昨年度に引き続き、私たちと由比のみなさんをつなぐ架け橋として、多大なるご協力をいただきました。実習初日に桑原会長の呼びかけで集まってくださった由比の各地区自治会長のみなさんには、学生の聞き取り調査に快くご協力いただきました。宿泊先の見晴旅館さんには、居心地の良いお部屋とおいしい食事を提供していただきました。紙幅の関係上お名前を申し上げられなかった皆様をふくめて、この場で厚くお礼を申し上げます。

なお、本報告書の刊行にあたっては、静岡大学人文社会科学部学部長裁量経費の助成を受けました。本報告書の内容は、下記の URL からもご覧いただけます。

http://www.hss.shizuoka.ac.jp/shakai/bunjin/

平成 30 年 12 月

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学コース

長沼　さやか・山本　達也